
令和7年度 第2学年

S Y L L A B U S
(シ ラ バ ス)

自主実践

授 業 計 画

北海道白糠高等学校

目 次

文	学	国	語 ...	2
地	理	総	合 ...	7
数		学	...	9
数		学	A ...	13
生	物	基	礎 ...	15
体			育 ...	17
保			健 ...	19
音		楽	...	21
演	奏	に	親 し む ...	23
英	語	コ	ミュニケーション ...	25
家	庭	総	合 ...	27
保	育	基	礎 ...	29
簿			記 ...	31
情	報	処	理 ...	33
産	業	社	会 と 人 間 ...	35
環	境	鮮	麗 学 ...	37
総	合	的	な 探 究 の 時 間 ...	39

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
2 学年	国語		文学国語		4	秋間朋子		
使用教科書	新文学国語（三省堂）			使用副教材				
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、我が国の言語文化の担い手としての自覚を高め、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。							
育成を目指す資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	○					○	○	
育成のための具体的方策	基礎学力：プリントを通して学びを確認したり、小テストを行うなどして定着をはかる。 情報活用力：ICT機器を適切に活用し、情報を収集し、整理してまとめる。 未来設計力：言葉を通して他者や社会に関わり、将来的に必要な力を知る。 協働力、課題解決能力：自らの課題を把握し、グループワークなどで他者と協働し、課題解決を目指す。							
評価規準 （到達目標）	観 点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	言葉による見方・考え方を働かせ、国語で的確に理解し効果的に表現するための、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。		深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。			言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。		
評価の方法	ワークシート 小テスト・定期考査 作品		発表・作品 ワークシート 小テスト・定期考査			ワークシート グループワーク 発表・作品		
単元の目標・評価規準								
単元名	人間についての考え方を深める読書							
単元の目標	文学に描かれる人間への見方をとらえる。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。		作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。			人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めたり、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。		
単元名	文学の言葉を感じ取る							
単元の目標	言葉の響きを味わい、発想の展開をとらえる。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。		文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。			言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解したり、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。		
単元名	解釈の多様性を楽しむ							
単元の目標	物語の展開に伴って深まっていく疑問に対し、自分なりの考えを持つ。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。		文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。			人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めたり、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。		
単元名	みんなでつなぐリレー小説							
単元の目標	読み手に興味をもたせる構成や展開を工夫し、リレー小説を書く。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。		読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。			文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使ったり、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。		
単元名	心情の表現に読みひたる							

単元の目標	情景の豊かさや心情の機微を表す語句をもとに、登場人物の心情をとらえる。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。	情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしたり、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
単元名	歴史の語り方について考える		
単元の目標	歴史物語の解釈の仕方を、作品と評論を関連づけて考える。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。	作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。	文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めたり、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
単元名	近代の文章に価値を見いだす		
単元の目標	時代を超えて残る作品から、人間の心の機微を読み取る。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。	他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。	文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めたり、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
単元名	作家のストラテジーを読み解く		
単元の目標	作品が読者に問いかけていること考え、自らの考えを表現する。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。	語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。	文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使ったり、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
単元名	文学の想像力をとらえる		
単元の目標	古典文学の魅力について自分の考えを書く。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。	設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解したり、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
単元名	表現の宝さがし		
単元の目標	素材を吟味し、すぐれた表現を追究する。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。	文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。	文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使ったり、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
単元名	表現の意味をとらえ直す		
単元の目標	作品が描いている人間の心の複雑さを読み取る。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。	作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。	文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めたり、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の

			作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。		
単元名	企画・提案型小論文を書く				
単元の目標	「近代・現代文学」を対象とし、与えられた課題に対して、多くの賛同を得られるように自分の企画・提案を述べる。				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。	文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めたり、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。		
単元名	言語文化の可能性を追求する				
単元の目標	作品をほかの形式のものと比較したり書き換えたりして、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める。				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。	設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めたり、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。		
単元名	言葉でスケッチ				
単元の目標	五感で感じたことを言葉で表現する。				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。	文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。	文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めたり、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている		
単元名	時代を超えて生きる古典文学を温める				
単元の目標	古典文学における自然の描き方をとらえ、自然に対する見方を深める。				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。	作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めたり、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。		
単元名	自分と未来をつなぐ文学の魅力を探る				
単元の目標	作品の主題をとらえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める。				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。	作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めたり、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。		
授業計画					
学期 月	学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期 4	オリエンテーション	○ 1年間の学習内容や評価の方法について理解する。 ○ 文学作品を読む意義を知る。	2		プリント・記述

	5	1. 人間についての考えを深める読書 「星の王子さま」	○「この世でたったひとりの人になる」という言葉と関連づけてとらえると、「仲良くなる」とはどういうことを示唆しているか考える。 ○「かんじんなことは、目には見えない」という言葉は、人間の世界をどのように見ていると考えられるか、考えをまとめる。	読む 5		プリント・記述 グループワーク 単元テスト
		2. 文学の言葉を感じ取る 「虹の雌雄」	○虹をめぐる筆者の思いと賢治の詩とは、どのように響き合っているか、まとめる。 ○「虹が見せる熱のない炎」とは何を表現しているか、また、それをなぜ「畏れながら慕う」のか、短い文章にまとめる。	書く 3		プリント・記述 グループワーク 単元テスト
		3. 解釈の多様性を楽しむ 「予感」	○「わたし」の行動と気持ちの変化を、物語の展開に即して整理する。 ○「もう一度実家に電話した」ときに、電話の相手の声が二転三転しているように「わたし」が感じたのはなぜか、考える。 ○「賢沢な……証拠じゃないの。」という言葉で「わたし」はどう受けとめたか、考える。	読む 5		プリント・記述 グループワーク 単元テスト
		4. みんなでつなぐリレー小説	○グループでリレー形式の小説を書いて相互に感想を交換する。	書く 10		プリント・記述 グループワーク 作品
		5. 心情の表現に読みひたる 「山月記」「デューク」	○「虎」になる前の李徴はどのような人物として描かれているか、読み取ったことをまとめる。 ○袁徴はどのような人物として描かれているか。また、李徴にとって袁徴はどういう存在か、簡潔にまとめる。 ○李徴は自分が虎になってしまった理由をどのように捉えているか考える。 ○最後に李徴が叢を出て、自らの姿を袁徴の目にさらしたのはなぜだろうか、考えてまとめる。	読む 17		プリント・記述 グループワーク 定期考査
		6. 歴史の語り方について考える 「花山院の退位——「大鏡」を読む」	○『大鏡』では、兼家や道兼をどのような人物として描いているか。本文中の『大鏡』原文をあわせて読み、考えたことをまとめる。	読む 7		プリント・記述 グループワーク 定期考査
		7. 近代の文章に価値を見いだす 「永訣の朝」「たけくらべ」	○できごとの経過にそって登場人物の行動と心情の推移をまとめる。 ○特徴的な表現について、作品に対しどのような効果をもたらしているか説明する。	読む 9		プリント・記述 グループワーク 定期考査
		前期末考査 返却・解説		1 1		
		8. 作家のストラテジーを読み解く 「少年という名前のメカ」「パースデイ・ガール」「皮膚と心」	○記述から登場人物の心情を読み取る。 ○語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価する。	読む 7		プリント・記述 グループワーク 単元テスト
		9. 文学の想像力をとらえる 「源氏物語——北山の垣間見」	○作中に登場する人物相互の関係を、光君（光源氏）を中心とした人物相關図に表す。 ○少女（若紫）はどのような人物として描かれているか、容姿や行動の叙述をもとにして説明する。 ○「女房」や「尼君」は、この時の暮らしに対して、どのような思いをもっているか、考えてまとめる。 ○古典文学と現代のつながりを考え、古典文学の魅力について自分の考えを書く。	書く 8		プリント・記述 グループワーク 単元テスト
		10. 言葉でスケッチ	○絵画から読み取ったことを言葉で描写し、相互に論評する。	書く 2		プリント・記述 グループワーク 作品
		11. 表現の宝さがし	○自作の短歌・俳句を読み合い、よりよい表現を探る。	書く 3		
		12. 表現の意味をとらえ直す 「こころ」	○記述をもとに、登場人物の心情の推移をとらえる。 ○一人称視点で書かれることによる効果と特徴をまとめる。 ○特徴的な表現が象徴・暗示することを考える。 ○別の登場人物の視点や三人称視点に書き換えることで客観的な状況や、登場人物の心情を考える。	読む 20		プリント・記述 グループワーク 定期考査 作品

1	13. 企画・提案型小論文を書く	○「近代・現代文学」を対象とし、与えられた課題に対して、多くの賛同を得られるように自分の企画・提案を述べる。	書く 10	プリント・記述 グループワーク 作品
	14. 言語文化の可能性を追求する 「鞠」「竹取物語——かぐや姫の昇天」	○「翁」と「かぐや姫」のそれぞれの思いは、どのように すれ違っているか、考えを文章にまとめる。 ○「竹取物語」をもとにして作られたほかの形式の作品を 見比べたり、書き換えたりして、気づいたこと、考えた ことを話し合う。	読む 10	
	15. 時代を超えて生きる古典文学を温める	○筆者が考える理想の住まいとは、どのようなものかを 考える。 ○古典の作品に自然災害に関する叙述が残されているこ とには、どんな意義があるのかを考える。 ○今まで読んだ古文の随筆（「枕草子」や「徒然草」など ）と内容や書きぶりなどを比べ、その相違を指摘する。	読む 8	
	後期期末考査 返却・解説		1 1	
2	16. 自分と未来をつなぐ文学の魅力を探る 「珊瑚のリング」「旅する本」	○この作品を読んで感じたことを、自分なりの言葉で表 現する。 ○「私」が「母」の遺品を時間をかけてひとつひとつ整理 しようと思ったのはなぜか、また、その間に、「私」の 気持ちはどのように変化していったか、考える。 ○母から受け取った「珊瑚のリング」が、現代社会で働い ている「私」にもたらしてくれたものは何か、考える。 ○「本」は、「男」や「男の子」にどのようなことをもた らしたか、それぞれの物語をまとめる。 ○「本」とはどのようなものとして描かれているか考える 。 ○これまでの読書体験の中で、自分のつらさや喜びなど に寄り添ってくれた本について紹介し合う。	読む 10	プリント・記述 グループワーク 作品 定期考査
合 計			140	

学習サポート	希望者は漢字検定、日本語検定を受験することができます。希望があれば検定対策講習も行いますので積極的に受験してください。
--------	---

学年・コース	教科		科目		単位数	担当者		
2 学年	地歴・公民科		地理総合		2	丸田 宏平		
使用教科書	高校生の地理総合（帝国書院）			使用副教材		標準高等地図（帝国書院）		
科目の目標	地理にかかわる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解する。位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、地域などに着目して、課題解決に向けて構想する力や考察する力を養う。また、多面的・多角的な考察を通して育まれる日本国民としての自覚や我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重する態度を養う。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	○				○	○	○	○
育成のための 具体的方策	基礎学力：ワークシート、定期考査、単元テスト。情報活用力：GISの利用、インターネットなどを活用して資料を作成、資料の分析。未来設計力、協働力・課題解決力、社会形成力：SDGsを利用した課題設定、課題解決。グループワーク等による意見交換等。							
評価規準 （到達目標）	観点							
	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。			地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。		知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。		
評価の方法	単元テスト、定期考査、ワークシートの記入状況、調べ学習の取組状況			単元テスト、定期考査、グループワークの取組、ワークシートの記入状況、レポート		単元テスト、定期考査、グループワークの取組、ワークシートの記入状況、授業態度		
単元の目標・評価規準								
単元名	地図と地理情報システム							
単元の目標	日常生活の中で見られる地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。地理情報システムについて適切な活用の仕方などを多面的に考察し、表現する。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。地理情報システムを利用して主題図を作成できる。			地図や地理情報システムから得た情報を整理分析し、自らの意見や考えを表現しようとしている。		地図や地理情報システムを意欲的に利用し、現代社会に生きる自己の課題として捉えようとしている。		
単元名	生活文化の多様性と国際理解							
単元の目標	現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度がみられる。地域構成について世界的視野から国家間の結び付きなどを多角的、多面的に考察し、表現する。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	世界の自然環境と人々の生活、言語と宗教活動について理解し、その知識を身に付けている。			写真や主題図を用いて、世界の自然環境とそれに対応する人々の生活のようすを把握し、地域性について考察することができる。		現代世界の地域構成について、自然、言語、文化的側面などから多面的に捉えようとしている。		
単元名	地球的課題と国際協力							
単元の目標	地球環境問題、エネルギー問題、人口食料問題などを基に、地球的課題の関連性を見出し、理解する。持続可能な社会実現を目指して、各国の取組や国際協力の必要性などについて理解する。現状分析、課題解決の方法について考察し、表現する。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	複雑に絡み合う地球的課題について、環境問題の発生が人間活動によって引き起こされていることを理解する。			地球環境問題、資源エネルギー問題、人口食料問題および都市・居住問題などと、地球的課題を結びつけて考えられる。		地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。		
単元名	自然環境と防災							
単元の目標	世界でみられる自然災害、地域の自然環境の特色と自然災害への備え、自然災害への規模や頻度など、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。地域性を踏まえた防災について、自然災害への備えや対応などを多角的に考察し、表現する。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	世界の自然災害や生徒の生活圏でみられる自然災害について理解する。さまざまな災害に対応したハザードマップの情報を収集し、読み取りまとめる地理的技能を身に付けている。			世界の災害、大規模な災害への対応や災害の教訓を生かして、どのような対策を講じていくべきかを考えられる。		自然災害と防災について、よりよい社会の実現を目指して主体的に追究し、課題を解決しようとしている。		
単元名	生活圏の調査と地域の展望							
単元の目標	生活圏の調査と地域の展望、生活圏の地理的な課題について、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的、多角的に考察し、構想し、表現する。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	身近な地域の変遷を、新旧地形図の読み取りなどから理解する。野外調査の計画や実施に向けた準備をすることができる。			身近な地域における調査で明らかになったことを的確にまとめ、発表することができる。		生活の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究、解決しようとしている。		

授業計画							
学期 月		学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法	
前期	4	地図や地理情報システムと現代世界 地球儀と地図 地図と地理情報システム	・日常生活の中でみられる地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。 ・地図や地理情報システムについて、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。	10		単元テスト	
	5	結びつきを深める現代世界 現代世界の国家と領域 地図から見る国内や国家間の結びつき		10		ワークシート 単元テスト 調べ学習の取組	
	6	生活文化の多様性と国際理解 世界の地形と人々の生活 世界の気候と人々の生活		15		単元テスト グループワーク	
	7	世界の産業と人々の生活 世界の宗教・民族・言語と人々の生活	・世界の人々の生活文化について、自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。				単元テスト ワークシート
	8	多様な生活文化と地理的環境					レポート
	9	< 前期末考査 >					定期考査
	10	地球的課題と国際協力 人口問題 食料問題	・地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の関連性などについて大観し理解する。 ・持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。	10			グループワーク ワークシート
	11	都市・居住問題 感染症・衛生問題 資源エネルギー問題					単元テスト ワークシート
	12	地球環境問題		15			単元テスト ワークシート
	1	自然災害と防災 日本の自然環境 地震・津波や火山活動による災害と防災 気象災害と防災 自然災害への備え	・世界で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備え自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。 ・さまざまな自然災害に対応したハザードマップの情報を収集し読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。				
	2	生活圏の調査と地域の展望 < 後期末考査 >		10			レポート 定期考査
	合 計					70	
学習サポート		・教科書、筆記用具（2～3色程度のペンも必要 ・考査後のファイル提出のときは名前を書き、提出時バラバラにならないようにする。 ・プリントは考査に出題されることがあるのでファイルに挟むなどして保管する。 ・「忘れ物をした」「提出物を失った」「提出物を忘れた」場合、必ず報告・連絡・相談をすること。 ・受験科目に地理がある人（大学、短大、公務員、就職試験）は教科担任に相談すること。					

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
2 学年	数学		数学		4	遠山 海翔		
使用教科書	新 高校の数学 (数研出版)			使用副教材	パラレルノート 数学 (数研出版)			
科目の目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
							○	
育成のための 具体的方策	【基礎学力】 各小単元の確認プリント、各単元テストを通して基礎的、基本的な知識と計算能力が身に付いたかを確認する 【情報活用力】 三角関数、図形の方程式などを数理的に捉え、数学的に処理し、問題を解決する数的活動を取り入れる 【協働力・課題解決力】 グループ演習を通して問題解決の過程を振り返り、考察を深めたり改善したりしようとする態度を養う							
評価規準 (到達目標)	観 点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。			数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価の方法	授業課題・単元テスト		授業課題・単元テスト・提出物・発表			授業課題・単元テスト・提出物・発表		
単元の目標・評価規準								
単元名	第1章 複素数と方程式 第1節 式の計算							
単元の目標	多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにする。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	・3次式の展開の公式利用できる。 ・3次式の因数分解の公式を利用できる。 ・二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 ・分数式を約分、乗法・除法、加法・減法の計算ができる。		・数学 で既習である2次式の展開の公式を利用して、3次式の展開の公式を導くことができる。 ・展開式の係数について、組合せの総数と関連付けて考察することができる。 ・分数式の計算について、分数の計算と同じように考察することができる。			・3乗に関わる展開の公式を自ら導こうとする。		
単元名	第1章 複素数と方程式 第2節 複素数と方程式							
単元の目標	数の範囲を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の計算ができるようにする。また、複素数を用いて、2次方程式やその解についてより一般的に考察できるようにする。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	・負の数の平方根を理解し、iを用いて処理することができる。 ・複素数の相等を理解している。 ・複素数の加法・減法・乗法の計算ができる。 ・協約な複素数の定義を理解し、それを用いて複素数の除法の計算ができる。 ・2次方程式の解の公式を利用して、2次		・複素数の表記を理解し、複素数a+0iを実数aと同一視できる。 ○2次方程式の解について、実際に解を求めずとも、判別式で解の種類を判別できることを理解している。 ○やや複雑な2数を解にもつ2次方程式がどのようなものであるか、解と係数の関			・数の範囲を実数から複素数へ拡張することについて、有理数から実数に拡張したと関連させ、考察しようとする。 ○2次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2次方程式の解を考察しようとする。 ○2次方程式の解に関する種々の問題を、解		

	方程式を解くことができる。 - 判別式を利用して、2次方程式の解を判別することができる。 - 解と係数の関係を使って、2次方程式の2つの解の和、積を求めることができる。 - 解と係数の関係を使って、対称式の値を求めることができる。 - 対称式を基本対称式で表して、式の値を求めることができる。 2数を解にもつ2次方程式を作ることができる。 - 多項式の割り算の計算方法を理解し、計算することができる。 - 剰余の定理を利用して、多項式を1次式で割ったときの余りを求めることができる - 因数定理を利用して、ある1次式が多項式の因数であるか調べることができる。 $P(k) = 0$である kの値の見つけ方を理解し、高次式を因数分解できる。 - 因数分解を利用して、高次方程式を解くことができる。 - 因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。	係を利用して考察することができる。 - 多項式の割り算の結果を等式で表して考察することができる。 - 多項式を1次式で割ったときの余りを求めるのに、剰余の定理が利用できることを理解している。 - 多項式$P(x)$が$x - k$で割り切れることを式で表現することができる。 - 高次方程式を、1次方程式や2次方程式に帰着させることができる。	と係数の関係を利用して考察しようとする。 おきかえなどの工夫によって、よりよい方法を考察しようとする。
単元名	第2章 図形と方程式 第1節 点と直線		
単元の目標	座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	2点間の距離や、様々な点の関係について正しく理解している。 - 直線の方程式について正しく理解している。 - 座標を用いて距離及び様々な点を求めることができる。 - 直線の方程式を表し、グラフで表すことができる。	- 座標を用いて様々な点について考察することができる。 2つの直線が垂直、及び平行であることの条件が考察できる。	- 座標を用いて、平面上の点について様々な考察に活用しようとする。 - 直線の式を導くための条件に関心をもち、自分で調べる。
単元名	第2章 図形と方程式 第2節 円		
単元の目標	座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、それらの有用性を認識する。また、図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、事象の考察に活用できるようにする。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	- 円と直線の位置関係について理解し、基礎的な知識を身に付けている。 - 与えられた条件から、それを満たす円の方程式を表すことができる。 - 円と直線の共有点の座標やその個数を求めることができる。	円と直線の位置関係と連立方程式の関係を、実生活を題材に、考察することができる	- 円を方程式で表すことに関心をもち、自ら調べる。 - 円と直線の位置関係に関心をもち、様々な式や値を求めようとする。
単元名	第3章 三角関数		
単元の目標	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	- 一般角と三角関数の値についての基礎的な知識を身に付けている。 - 三角関数のグラフの性質について基礎的な知識を身に付けている。 - 三角関数の性質を用いて一般角における三角比の値を求めることができる。 - 三角関数において、周期や振幅の違うグラフも図示することができる。 - 加法定理を正しく理解し、目的のために適切に処理することができる。 - 加法定理を用いて正しく計算をすることができる。	- 一般角から三角関数の概念を導入することについて考察できる。 - 三角関数のグラフについて考察することができる。 - 加法定理を用いて実生活の中から題材を考察することができる。	- 一般角に拡張させた意義や弧度法の利便性を感じ、関心をもち、調べようとする。 - 三角関数のグラフに関心をもち、自ら調べようとする。 - 加法定理の有用性に関心をもち、積極的に活用しようとする。
単元名	第4章 指数関数・対数関数 第1節 指数関数		
単元の目標	指数を実数まで拡張する意義を理解し、指数関数を事象の考察に活用できるようにする。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	- 拡張された指数の意味を正しく理解している。 - 拡張された指数の値を正しく計算することができる。 - 指数関数のグラフを正しくかくことがで	指数関数の値の変化に着目して考察することができる。	- 指数を有理数へ拡張することの有意性を理解し、関心を持つ。 - 指数関数のグラフに興味を持ち、課題解決に利用しようとする。

後期	3 三角関数 1 節.三角関数	・一般角 ・弧度法 ・三角関数 ・三角関数の性質 ・三角関数のグラフ ・三角関数と方程式・不等式	31	確認プリント 単元テスト ワーク
	2 節.加法定理 <u>→ 単元別試験</u>	・加法定理 ・加法定理の応用	16	
	4 指数関数・対数関数 1 節.指数関数	・指数の拡張 ・指数関数		
	2 節.対数関数 <u>→ 単元別試験</u>	・対数とその性質 ・対数関数		
	5 微分法と積分法 1 節.微分係数と導関数	・平均変化率と微分係数 ・導関数	31	
	2 節.微分法の応用 3 節.積分法 <u>→ 単元別試験</u>	・接線の方程式 ・関数の増減と極大・極小 ・方程式・不等式への応用 ・不定積分 ・定積分 ・定積分と面積		
合 計			140	
学習サポート		○TTまたは習熟度別少人数クラスの授業を展開することで個々の学力に合わせたサポートを行う。 ○必要最低限のノートとメモで済むような授業プリントの工夫。 ○ICT機器を利用した見やすく、理解しやすい授業内容。 ○自主学习に役立つ「Studyaid Viewer」や「スタディサプリ」の日常的な活用。		

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
2 学年	数学		数学 A		2	堀崎 裕史・遠山 海翔		
使用教科書	新 高校の数学 A (数研出版)			使用副教材		パラレルノート 数学 A (数研出版)		
科目の目標	場合の数と確率、整数の性質または図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
					○		。	
育成のための 具体的方策	【基礎学力】 ワークシートを使用した授業。確認プリントと単元テストで基礎学力が身に付いたかを確認する。 【情報活用能力】 Studyaid D.Bやロイロノートなどアプリケーションソフトを利用して学習に取り組む。 【協働力・課題解決力】 グループワークなどを通して、課題を発見し、さまざまな考え方を受け入れながら、自分の考えを表現し、解決策を見いだす。							
評価規準 (到達目標)	観 点							
	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	・ 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している ・ 数学と人間の活動の関係について認識を深めている ・ 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現処理したりすることができる			・ 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見出し、論理的に考察することができる ・ 不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる ・ 数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見出し、数理的に考察することができる		・ 数学の良さを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている		
評価の方法	授業課題・単元テスト			授業課題・単元テスト・提出物・グループワーク・発表		授業課題・単元テスト・提出物・グループワーク・発表		
単元の目標・評価規準								
単元名	1 章 場合の数と確率 第 1 節 場合の数							
単元の目標	場合の数を求める時の基本的な考え方について理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	・ 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 ・ 具体的な事象を基に順列及び組み合わせの意味を理解し順列の総数や組み合わせの総数を求めることができる、			・ 事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。		・ 事象を場合の数や確率の考えを用いて考察する良さを認識し、問題解決にそれらを活用しとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。		
単元名	1 章 場合の数と確率 第 2 節 確率							
単元の目標	確率の意味と確率を求めるときの基本的な法則や考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	・ 確率の意味や基本的な法則について理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 ・ 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。 ・ 条件付確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付確率を求めることができる。			・ 確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・ 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。		・ 事象を場合の数や確率の考えを用いて考察する良さを認識し、問題解決にそれらを活用しとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。		
単元名	2 章 図形の性質 第 1 節 平面図形							
単元の目標	平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		

評価規準 (A評価のレベル)	・三角形に関する基本的な性質について理解している。 ・円に関する基本的な性質について理解している。	・図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。	・事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
単元名	2章 図形の性質 第2節 空間図形		
単元の目標	空間図形の性質についての理解を深め、それらを観察したり考察したりすることで、空間認識力の育成を図る。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	・2直線の関係、直線と平面の関係、2平面の関係には3種類ないしは2種類あることを理解し、それらの位置関係を示すことができる。 ・2直線のなす角、直線と平面の垂直条件、2平面の位置関係について理解し、角の大きさやそれらの関係性を求めることができる。	・図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。	・事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
単元名	3章 数学と人間の活動		
単元の目標	整数の性質、点の位置の表し方、数学とゲーム・パズルとの関係について、数学的活動を通して理解を深め、それらを事象の考察に活用し、数学により興味をもってもらえるようにする。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	・数量や図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて理解している。 ・数学史的な話題、数理的なゲームやパズルなどを通して、数学と文化との関わりについて理解している。	・数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 ・パズルなどに数学的な要素を見だし目的に応じて数学を活用して考察することができる。	・人間の活動における数学のよさを認識し、様々な場面で数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

授業計画

学期 月		学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	4 5	1章 場合の数と確率 1節 場合の数 [単元別試験]	・集合 ・集合と要素の個数 ・和の法則と積の法則 ・順列 ・組合せ	12		小テスト 課題等の提出物 単元別試験 実験レポート グループ活動での 取り組み状況
	6 7 9	1章 場合の数と確率 2節 確率 [単元別試験]	・事象と確率 ・確率の計算 ・独立な試行と確率 ・条件付確率 ・期待値	24		小テスト 課題等の提出物 単元別試験 グループ活動での 取り組み状況
後期	9 10 11	2章 図形の性質 1節 平面図形 [単元別試験]	・図形の基本 ・角の二等分線と線分の比 ・三角形の外心、内心、重心 ・円周角の定理 ・円に内接する四角形 ・円の接線 ・方べきの定理 ・2つの円 ・作図	15		小テスト 課題等の提出物 単元別試験 グループ活動での 取り組み状況
	12	2章 図形の性質 2節 空間図形 [単元別試験]	・空間の直線、平面 ・正多面体 ・立体の切断	5		小テスト 課題等の提出物 グループ活動での 取り組み状況
	3	3章 数学と人間の活動 [単元別試験]	・約数と倍数 ・ユークリッドの互除法 ・2進法 ・点の位置の表し方 ・数学とゲーム・パズル	14		小テスト 課題等の提出物 単元別試験 グループ活動での 取り組み状況

学習サポート	○TTの授業を展開することで個々の学力に合わせたサポートを行う。 ○必要最低限のノートとメモで済むような授業プリントの工夫。 ○ICT機器を利用した見やすく、理解しやすい授業内容。 ○自主学習に役立つ「Studyaid Viewer」や「スタディサプリ」の日常的な活用。	目 録 70 71 72
--------	--	-----------------------

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
2 学年	理科		生物基礎		2	早乙女 宙士		
使用教科書	生物基礎（数研出版）			使用副教材	改訂版 リードLightノート生物基礎			
科目の目標	・生物的な事象について観察、実験を通して自然に対する関心を高め、探究能力を育てる。 ・“ 共通性と多様性 ” に着目した切り口でヒトも含めた様々な生物についての基礎的な内容を学習し、自然や生物に興味関心を持つ。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
		○			○			
育成のための 具体的方策	・授業に毎回出席し、話を聞き、書くこと、が必要。（基礎知識の習得） ・図表やグラフを多く扱うので、単なる単語の暗記ではなく“ しくみやつながり ” を意識して意味を理解すること。（知識の活用、科学的な見方考え方を重視します） ・実験や観察には危険も伴うので、授業中の指示には必ず従うこと。（決まりを守る）							
評価規準 （到達目標）	観 点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているとともに、生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得する。さらに、身につけた知識を活用して問題を考えることができる。		生物や生物現象に問題や疑問を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。			日常生活や社会との関連を計りながら生物の構造やしくみに関心を持ち、主体的、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけている		
評価の方法	定期考査、単元テスト、実験・観察		定期考査、単元テスト、発表			授業・実験・グループワークへの取り組み姿勢		
単元の目標・評価規準								
単元名	1、生物の特徴							
単元の目標	・ヒトと他の生物の共通点や相違点を細胞レベルで理解する。 ・生きるために必要なエネルギーの代謝（呼吸）と生産（光合成）のしくみを理解する。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	多様な生物に共通性が見られる理由を理解し説明できる。 細胞の構造を正しく理解している。 ATPについて理解する。 光学顕微鏡を正確に扱うことができる		一日のおおよその消費エネルギーを算出することで、摂取と消費を比べ、食生活を考えることができる。 呼吸と光合成について正しく説明することができる。			授業に参加し、単元の目標を達成するために行動している。 消費エネルギーの算出と栄養成分表を比較、考察し、摂取と消費のバランスが良い食事メニューを議論し、発表できる。		
単元名	2、遺伝子とそのはたらき							
単元の目標	・生物共通のしくみである遺伝情報の伝達、タンパク質合成をDNAレベルで理解する。 ・細胞分裂の過程に伴うDNAの増減と分配方法について染色体の動きと関連させて理解する。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	DNAの構造と遺伝子の関係について理解している。 DNAの模型を作成できる。 遺伝情報の複製と分配のしくみを正しく理解している。 セントラルドグマとゲノムとは何かを正しく理解している。		DNAとRNAの構造やはたらきの違いを正確に説明することができる。 セントラルドグマとは何かを正確に説明することができる。			授業に参加し、単元の目標を達成するために行動している。 DNA模型を完成させるために協働できる。		
単元名	3、生物の体内環境							
単元の目標	・体内環境と恒常性について理解する。 ・血液凝固、肝臓、腎臓の機能と体内環境調節のしくみを理解する ・自律神経系やホルモンの働きによる恒常性の維持、および血糖や体温の調節システムについて理解する。 ・免疫による生体防御システムについて理解する。また、免疫と病気の関わり、および医療の発展について理解する。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	神経系と内分泌系が、体の状態を調節するしくみを理解している。 体内環境の維持のしくみを理解している。 解剖実験を正確に行える。		体内環境維持の仕組みを正しく説明できる。 免疫の仕組みを正確に説明することができる。			授業に参加し、単元の目標を達成するために行動している。		

		免疫のしくみを理解している。				
授業計画						
学期 月		学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	4	生物の特徴	・ヒトと他の生物の共通点や相違点を細胞レベルで理解する。 ・観察に欠かせない光学顕微鏡の使い方を習得する。 ・生きるために必要なエネルギーの代謝（呼吸）と生産（光合成）のしくみを理解する。	10		・授業への主体的な取り組み ・グループワークへの取り組み ・定期考査 ・単元テスト ・実験への取り組み ・発表の内容を観点別に見て、総合的に判定します。
	5	生物の多様性と共通性				
後期	6	エネルギーと代謝、呼吸と光合成	・生物共通のしくみである遺伝情報の伝達、タンパク質合成をDNAレベルで理解する。 ・セントラルドグマを説明できる。 ・細胞分裂の過程に伴うDNAの増減と分配方法について染色体の動きと関連させて理解する。	17		
	7	遺伝子とそのはたらき	・体内環境と恒常性について理解する。 ・自律神経系やホルモンの働きによる恒常性の維持、および血糖や体温の調節システムについて理解する。 ・血液凝固、肝臓、腎臓の機能と体内環境調節のしくみを理解する ・免疫による生体防御システムについて理解する。また、免疫と病気の関わり、および医療の発展について理解する。	19		
	8	遺伝情報とDNA				
	9	遺伝情報の複製と分配、発現				
		前期末考査				
	10	ヒトの体内環境の維持	合 計	70		
	11	神経系と内分泌系				
	12	循環器系				
	1	免疫系				
	2	学年末考査				
	3					
学習サポート		授業で使用するもの ・教科書・ノート・筆記用具（黒・赤・青＋α）←図をいっぱい書きます 注意点 ・幅広い分野の学習になります。復習の部分もあるので、基礎力を身につけましょう。				

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
2 学年	保健体育		体育		3	矢野 晋太郎		
使用教科書				使用副教材				
科目の目標	運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる科目である。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
				○	○			
育成のための 具体的方策	・計画に沿って授業を進め、授業の振り返りやポイントを明確にする。 ・グループワーク、ペアワークを用い、主体的・協働的な活動を取り入れる。 ・スキルテスト							
評価規準 (到達目標)	観 点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続できるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。			運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、主体的に学習に取り組もうとしている。		
評価の方法	・スキルテスト ・課題の取り組み状況		・授業に対する姿勢 ・課題の取り組み状況			・授業に対する姿勢 ・課題の取り組み状況		
単元の目標・評価規準								
単元名	体づくり運動							
単元の目標	体を動かす美しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力や生活に応じ運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	体の構造、運動の原則などを理解している		自己の課題に応じて適切な条件を設定している。			互いの体力の違いに配慮し、意欲的に活動に取り組もうとしている。		
単元名	球技 バレーボール							
単元の目標	自チームや相手チームの特徴に応じた作戦を立てて、勝敗を寄贈楽しさや喜びを味わい、状況に応じたパス、アタックなどのボールコントロールを身に付け、ゲームを展開できるようにする。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	・特性に応じた技術の構造や技能を高めるための効果的な方法を理解している。 ・特性に応じた基本的な技能ができ、作戦を活かした攻防を展開できる。		技能に応じた課題を設定し、解決に必要な練習やゲームの仕方を見つけることができる。			互いに協力し勝敗を競い合いながら、楽しさや喜びを味わい、安全を確保しながら主体的に活動に取り組もうとしている。		
単元名	陸上競技（短距離走、長距離走、投てき）							
単元の目標	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わうとともに、技能を高め、より速く走れるようにする。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	・陸上競技に関して学習した具体例について理解している。 ・記録の向上に向けた体力の高め方を理解することができる。		自己の課題に応じた運動の行い方を見つけることができる。			自分の記録を更新するため、主体的に活動に取り組もうとしている。		
単元名	ダンス（リズムダンス、創作ダンス）							
単元の目標	積極的に取り組むとともに、イメージをとらえた表現や踊りを通した交流によって仲間とのコミュニケーションをとる。また、分担した役割を果たし、互いの違いや良さを認めたりできるようにする。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	・様々なダンスの特徴や表現の仕方の違いを理解することができる。 ・テーマに合った動きを選択し、ダンスを創作することができる。		・自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて工夫することができる。 ・即興的な表現や個性をいかした表現を用いながら、ダンスを創作することができる。			・自己や仲間の課題の解決に向けて粘り強く取り組むことができる。 ・自己や仲間の課題の解決に向けて粘り強く取り組むことができる。		
単元名	球技 ソフトボール							
単元の目標	状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって、攻防を展開することができるようにする。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	・攻撃側と守備側に分かれ、攻防を競い合う特性や技能を高める方法を理解している ・状況に応じたバット操作やボール操作、守備をすることができる。		技能に応じた課題を設定し、解決に必要な練習やゲームの仕方を見つけることができる。			互いに協力し勝敗を競い合いながら、楽しさや喜びを味わい、安全を確保しながら主体的に活動に取り組もうとしている。		
単元名	球技 バスケットボール							

単元の目標		自チームや相手チームの特徴に応じた作戦を立てて、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、状況に応じたパスやドリブル、シュートなどのボール操作を身に付け、チームメイトと連携した動きを高めて、ゲームを展開できるようにする。						
観点		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)		・攻防の中でシュートを楽しむ特性や、技能を高める方法を理解している。 ・特性に応じた基本的な技能ができ、作戦を活かした攻防を展開できる。		技能に応じた課題を設定し、解決に必要な練習やゲームの仕方を見つけることができる。		互いに協力し勝敗を競い合いながら、楽しさや喜びを味わい、安全を確保しながら主体的に活動に取り組もうとしている。		
単元名		球技 バドミントン						
単元の目標		自分のペアや相手のペアの特徴に応じた作戦を立てて、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、各種ストローク・サービスなどの安定したシャトル操作や、ダブルスにおけるパートナーとの連携した動きを高めて、ゲームを展開できるようにする。						
観点		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)		・ネット型種目の特性や個人やペアの技能を高める合理的な練習法を理解している ・各種フライトやサーブ技能、連携の仕方を身に付け、練習やゲームができる。		相手との攻防にあった作戦を立てたり、練習やゲームで新しい課題を見つけることができる。		互いに協力し勝敗を競い合いながら、楽しさや喜びを味わい、安全を確保しながら主体的に活動に取り組もうとしている。		
単元名		スキー						
単元の目標		基本的なスキー理論を理解し、安全なスキー技術を習得することができるようにする。						
観点		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)		・運動の行い方を知るとともに、技術の名称を理解している。 ・斜面でスピードをコントロールしながら、曲がったり、止まったりすることができる。		技能に応じた課題を設定し、斜面に応じた滑り方を工夫している。		公共のマナーや安全に気をつけてスキーの楽しさや喜びを味わうことができ、主体的に学習に取り組もうとしている。		
単元名		体育理論						
単元の目標		運動やスポーツが多様であることについての学習に積極的に取り組むことができるようにする。						
観点		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)		運動・スポーツが多様であることについて理解している		必要な情報を、比較したり分析して考えをまとめることができる。		主体的に学習に取り組もうとしている。		
授業計画								
学期 月		学習項目		学習内容		予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	4	体づくり運動		集団行動、新体力テスト、体力を高めるための運動等		3		授業観察 スキルテスト 課題の取り組み ワークシートの記載内容
	4・5	球技 バレーボール		オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク、サービス等		12		
	5・6	陸上競技				12		
6・7	ダンス		短距離走・長距離走、投てき		12			
後期	7・8・9	球技 ソフトボール		ヒップホップ、ロック、創作等		12		
	9・10	球技 バスケットボール		キャッチボール、バッティング、フィールディング、ゲーム等		10		
	11	球技 バドミントン				10		
	12	体づくり運動		ドリブル、パス、シュート、ゲーム等		6		
	1	武道(柔道)		各ストローク、ゲーム		12		
	2	武道(柔道)、スキー		体力を高めるための運動等		12		
	3	体育理論		礼法・受け身全般・寝技・投げ技等 スキーの基本動作(方向転換・登行・滑走など) スポーツの歴史・特性など				
				合 計	105			
学習サポート		・欠席、遅刻、忘れ物をしない。 ・積極的に参加し、運動に興味、関心をもって取り組むこと。 ・どの競技に関しても安全面を留意して運動に取り組むこと。 ・運動ができるかどうかだけではなく、総合的に判断し評価する。 ・授業は学校指定の体操着以外は認めない。(参加不可、見学の扱い) ・防寒としてインナーの着用は認めるが指定シャツの下に着ることとする。 ・見学であっても学校指定の体操着を着用すること。 ・見学の回数が3回ごとに補習を行う。 ・見学の回数が実時間数の20%を超えた場合は、履修の認定が難しくなる。 (怪我等で参加できない場合は除く) ・周囲と協力できない、指示に応じない場合は評価の大きな減点とする。 ・スキー授業の際は、ウエアと小物については各自で用意すること。 ・スキーセット(スキー、ブーツ、ストック)については、レンタル可能。						

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
2 学年	保健体育		保健		1	矢野 晋太郎		
使用教科書	現代高等保健体育			使用副教材	現代高等保健体育ノート			
科目の目標	社会の急激な変化により、現代社会における健康・安全の問題は多様化しており、国民全てにとって心身の健康の保持増進が大きな課題となってきた。これらの解決に向けて、健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を学習することにより、健康問題を認識し、適切に対処できる能力を養う科目である。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
			○		○			○
育成のための 具体的方策	・ 定期考査による基礎学力の確認 ・ グループワーク、ロールプレイング、ブレインストーミングなどの実施と発表 ・ ワークシートの活用							
評価規準 (到達目標)	観 点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	個人及び社会生活における健康・安全について理解している。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。			生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。		
評価の方法	確認テスト、ワークシート		確認テスト、ワークシート グループワークなどの実施と発表			授業に取り組む姿勢 課題・提出物の取り組み		
単元の目標・評価規準								
単元名	3 単元 生涯を通じる健康							
単元の目標	思春期から中高年期までに出あうさまざまな健康問題について学習し、労働と健康との関係や、働く人々の健康が保持増進されるしくみについて理解する。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	基本的な概念、原理などの知識に加え、発展的な概念なども正しく理解している。		生涯の各段階における自他や社会の健康課題を発見し、その解決に向けて思考・判断したことを、他者にわかりやすく伝えることができる。			生涯の各段階における健康課題への適切な対応について関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。		
単元名	4 単元 健康を支える環境づくり							
単元の目標	環境・食品と健康との関係を学ぶと同時に、社会全体の健康を高めるために、私たち 1 人ひとりが環境づくりに積極的に参加する意義や方法について理解する。							
観 点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	基本的な概念、原理などの知識に加え、発展的な概念なども正しく理解している。		社会生活における自他や社会の健康課題を発見し、その解決に向けて思考・判断したことを、他者にわかりやすく伝えることができる。			環境、食品と健康との関係を学び、社会全体の健康を高めるために、環境づくりに積極的に参加する意義や方法について関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。		
授業計画								
学期 月	学習項目		学習内容			予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	3 単元 生涯を通じる健康		○ 思春期の体の変化や心の発達にかかわる健康問題について理解する。 ○ 性意識の男女差、性情報が性行動に影響することを理解する。 ○ 妊娠、出産の過程における健康課題について理解する。 ○ 家族計画の意義、適切な避妊法、人工妊娠中絶が女性に及ぼす影響について理解する。 ○ 結婚生活を健康的に送るのに必要な考え方や行動を理解する。 ○ 加齢に伴う心身の変化、中高年期の健康を支える社会的取り組みを理解する。 ○ 働く人の健康問題の変化、労働災害の防ぎ方について理解する ○ 職場が行う健康増進対策や余暇の意義と活用の仕方について理解する ○ 大気汚染、水質汚濁、土壌汚染の原因と健康影響を理解する。			10		
	4	01 ライフステージと健康						
		02 思春期と健康						
	5	03 性意識と性行動の選択						
		04 妊娠出産と健康				8		
	6	05 避妊法と人工妊娠中絶						
		06 結婚生活と健康						
	7	07 中高年期と健康						
		09 労働災害と健康				1		
	8	10 健康的な職業生活						
		4 単元 健康を支える環境づくり						
	9	01 大気汚染と健康						
	02 水質汚濁、土壌汚染と健康	8						
10	03 環境と健康にかかわる対策							
	04 ごみの処理と上下水道の整備							
	05 食品の安全性							
	06 食品衛生に関わる活動							

後期	11	07 保健サービスとその活用	○環境汚染の特徴と問題点、防止対策について理解する。 ○ごみ処理の現状や課題、上下水道の仕組みと現状を理解する。 ○行政、生産、製造者による食品の安全のための対策について理解する。 ○保健行政の役割や活動、保健サービスの活用について理解する ○医療機関の役割、医療保険の仕組みについて理解する。 ○医薬品の正しい使用法、安全性を守る取り組みについて理解する。 ○民間機関、国際機関などの保健活動や対策を理解する。	2		
		08 医療サービスとその活用				
		09 医薬品の制度とその活用				
		10 さまざまな保健活動や社会的対策				
	12	11 健康に関する環境づくりと社会参加				
	1					
	2			5		
	3					
				1		
			合 計	3 5		

学習サポート	・欠席、遅刻、忘れ物しない（評価の対象） ・授業では板書やプリント等を利用します。ノートは保健体育ノートを使用すること。 ・ノート等の提出物を年間数回課す。提出遅れや不完全な状態の提出は評価の対象としない。完全な状態で提出すること。 ・忘れ物が重なった場合は減点評価を行うとともに、別途課題の提出等を課す。 ・定期考査、または単元テストは、30点未満を赤点とする。 ・赤点者は追認指導までの間に課題の提出、または放課後に課題を取り組む処置を取ることがある。					

学年・コース	教 科		科 目		単位数		担当者	
2 学年	芸術		音楽		2		菅原 雄一郎	
使用教科書	音楽 改訂版『Tutti+』(教育出版)				使用副教材		-	
科目の目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
			○		○			
育成のための 具体的方策	育成のための具体的方策 ペアやグループなどで協力して粘り強く試行錯誤し、演奏を完成させる。 音楽理論の復習を通し、演奏や鑑賞に最低限必要な力を身につける。 様々な音楽の鑑賞を通して表現や価値観の多様性に触れ、自らの考えや意図を表現し評価するための土台を作る。 音楽（楽譜）上のルールを確認し守りながら、集団で活動する。 練習計画などを自ら立て、調整しながら練習を進める。 タブレットの録画機能で自身の演奏を客観的に評価する。							
評価規準 （到達目標）	観 点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価の方法	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。		音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように表現するのかについて音楽表現を持ったり、音楽を評価しながら、良さや美しさを味わったりしている。			音や音楽、音楽文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の学習に取り組んでいる。		
	主に実技試験で評価		主に取組内容、ワークシートで評価			主にワークシート、授業中の取り組みで評価		
単元の目標・評価規準								
題材名	器楽：リコーダーアンサンブルに親しむ							
目標	アルトリコーダーの音色や奏法の特徴を生かし、曲想に合った音楽表現を工夫し、全体の響きを感じながら演奏することができる。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	リコーダーの音色や特徴を生かした音楽表現にするために必要な楽器の技能を身に付けている		旋律や和音の構成を知覚し、その働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考、どのように音楽を表現するかについて意図をもっている。			リコーダーアンサンブルに関心を持ち、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、他と協働・試行錯誤しながら、一つの音楽を創り上げる喜びを味わっている。		
題材名	器楽：ギターを弾こう							
目標	基本奏法を習得し、音色や奏法の特徴を生かして、曲想に合った音楽表現を工夫しながら演奏することができる。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	ギターが持つ音色や奏法の特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、創造的に表している。		ギターの音色を知覚し、その特徴を生かした音楽を表現するために、どの奏法を使い、どのような音色がふさわしいかについて、意図を持っている。			奏法の違いによる音色の違いに関心を持ちより良く表現しようと意欲的に取り組んでいる。		
題材名	鑑賞：日本の伝統音楽							
目標	声や楽器の音色の特徴と表現との関わりを感じ取り、楽曲や演奏を解釈して、それらの価値について理解する。また、歴史的背景や特徴、違い等について根拠を持って分析し、それぞれの違いに耳を傾けながら味わって鑑賞する。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	日本の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。		それぞれの特徴を知覚し、日本における伝統音楽と他国の伝統音楽との相違や類似について考えとともに、日本の伝統音楽に対する評価とその根拠、及び自分にとっての意味や価値について考え、日本の伝統音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。			楽曲を成立させた時代の文化・社会などの状況による様式の特徴に関心をもち、意欲的に聴いている。 我が国の伝統音楽（郷土の伝統音楽を含む）における構造、発声法・歌唱法、楽器及び奏法、記譜法、唱歌や調弦法などに関心をもち主体的に楽曲を聴き取っている。		
題材名	鑑賞：ポピュラー音楽							
目標	時代ごとの音楽ジャンル、流行や特徴の変遷について理解し、違いや相違点について根拠を持って分析することができる。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。		それぞれの特徴を知覚し、音楽と社会との関わりについて考えとともに、曲に対する評価とその根拠、及び自分にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いたり、他に伝えたりすることができる。			様々な音楽と演奏者の特徴を感じ取り、それぞれの良さを尊重しながら、主体的に味わって聴いている。		

題材名	鑑賞：西洋音楽の世界		
目標	声や楽器の音色の特徴と表現との関わりを感じ取り、楽曲や演奏を解釈して、それらの価値について理解する。歴史的背景や特徴、違い等について根拠を持って分析し、それぞれの違いに耳を傾けながら味わって鑑賞する。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。	声を用いた様々な音楽における固有の発音法・発声法・歌唱法などに関心を持ち、主体的に聴いている。 様々な楽器における材質、形態、発音の機構や奏法に関心を持ち、主体的に聴いている。

題材名	歌唱・器楽・創作・鑑賞：アンサンブルの楽しみ		
目標	それぞれの得意分野などにより選択した歌・楽器などの技術を磨き、楽曲の特徴やイメージに合わせた創造的なアンサンブル活動に取り組む。互いの演奏に興味をもち、それぞれの良さを尊重できる態度を身に付ける。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって演奏しようとしている。	それぞれの音色や奏法などの特徴と表現上の効果との関わりを理解し、それらを生かして演奏することに関心を持ち、他と協働・試行錯誤しながら主体的に取り組もうとしている。

授業計画						
学期 月		学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	4	器楽：リコーダーアンサンブル	・既習の運指と奏法の確認をする。 ・楽曲の特徴に合った奏法を選び取り、旋律やハーモニーを意識しながら、他と協働して豊かなアンサンブルを創り上げる。	16		ワークシート 実技テスト(発表)
	6	器楽：ギターを弾こう	・正しいチューニング法を身につける。 ・ギターの基本奏法を習得する。(旋律・コード)。 ・グループまたは個人で、任意の曲を弾き語りする。	16		ワークシート 実技テスト(発表)
	8 9	鑑賞：日本の伝統音楽	・日本の伝統音楽の特徴を理解し、それらの文化的・歴史的背景に関心をもって、そのよさや価値について考え味わう。	6		ワークシート 単元テスト
後期	10	鑑賞：ポピュラー音楽	・日本や海外のポピュラー音楽の特徴や変遷を理解し、それらの文化的・歴史的背景に関心をもって、そのよさや価値を考えレポートにまとめることができる。	8		ワークシート 単元テスト レポート
	11	鑑賞：西洋音楽の世界	・西洋音楽の特徴を理解し、それらの文化的・歴史的背景に関心をもって、そのよさや価値について考え味わう。	6		ワークシート 単元テスト レポート
	12 1 2 3	歌唱・器楽・創作・鑑賞 ：アンサンブルの楽しみ	・グループを作って一人ひとりの役割を決め、歌や楽器等を組み合わせ演奏する。 ・取り組みの成果を発表する。	18		ワークシート 実技テスト(発表)
合 計				70		

学習上の注意点	全員が気持ちよく学習に臨めるように、授業マナー 6 箇条を徹底しましょう。教科書の他に <u>筆記用具</u> 、 <u>アルトリコーダー</u> を各自用意してください。
学習サポート	授業内容に関する質問はいつでも受け付けます。

学年・コース	教 科	科 目	単位数	担当者				
2 学年	芸術	演奏に親しむ	2	菅原 雄一郎				
使用教科書	-		使用副教材	-				
科目の目標	音楽作品の演奏や鑑賞の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするため に必要な技能を身に付けるようにする。 （２）音楽の様式を踏まえた演奏に関する思考力、判断力、表現力等を育成する。 （３）音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケ ーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	○				○		○	
育成のための 具体的方策	育成のための具体的方策 ペアやグループなどで協力して粘り強く試行錯誤し、演奏を完成させる。 様々な音楽の鑑賞を通して表現や価値観の多様性に触れ、自らの考えや意図を表現し評価するための土台を作る。 練習計画などをみずから立て、調整しながら練習を進める。							
評価規準 （到達目標）	観点							
	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	音楽表現をするために必要な知識・技能を身に付けている。		知識・技能を総合的に働かせ、意図をもって解釈し表現している。			演奏や音楽作品に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。		
評価の方法	主に実技試験で評価		主に取組内容で評価			主にワークシート、授業中の取り組みで評価		
単元の目標・評価規準								
題材名	読譜と演奏の基礎							
目標	基本的な読譜能力と音楽の基礎知識の習得							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （Ａ評価のレベル）	読譜や基礎的な音楽のしくみを理解している。		音楽の理論や基本的な知識を正しく理解している。			音楽の理論や基本的な知識に関心を持ち意欲的に取り組んでいる。		
題材名	独奏（独唱）							
目標	選択した楽器などの音色や奏法の特徴を生かし演奏する。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （Ａ評価のレベル）	曲想や表現上の効果と音楽の関わりについて理解している。		旋律や和音の構成を知覚し、その働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考、どのように音楽を表現するかについて意図をもっている。			それぞれの音色や奏法などの特徴と表現上の効果との関わりを理解し、それらを生かして演奏することに関心を持ち、他と協働・試行錯誤しながら主体的に取り組もうとしている。		
題材名	独奏（独唱）							
目標	選択した楽器や声の音色や奏法の特徴を生かし、曲想に合った音楽表現を工夫し演奏する							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （Ａ評価のレベル）	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。		旋律や和音の構成を知覚し、その働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考、どのように音楽を表現するかについて意図をもっている。			それぞれの音色や奏法などの特徴と表現上の効果との関わりを理解し、それらを生かして演奏することに関心を持ち、他と協働・試行錯誤しながら主体的に取り組もうとしている。		
題材名	ピアノ発表会							
目標	個々で自由曲に挑戦し、皆の前で発表することで演奏会の雰囲気を味わうとともに、それぞれの表現を工夫する。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （Ａ評価のレベル）	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。		音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって演奏しようとしている。			それぞれの音色や奏法などの特徴と表現上の効果との関わりを理解し、それらを生かして演奏する。また、演奏を聴く姿勢、発表する姿勢が出来ている。		
題材名	ヴォイスアンサンブル							

目標	言葉の響きやリズムを理解し、全体の響きを感じながらヴォイスアンサンブルに親しむ。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの動きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって演奏しようとしている。	それぞれの音色や奏法などの特徴と表現上の効果との関わりを理解し、それらを生かして演奏することに関心を持ち、他と協働・試行錯誤しながら主体的に取り組もうとしている。

授業計画						
学期 月		学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期		読譜と演奏の基礎	楽譜の読み方や基本的な演奏技術・知識を簡単な楽曲を通じて学習する。	8		観察法 実技テスト
		独奏（独唱）	個に応じた楽曲を選択し、楽曲の基礎的な要素を理解	14		観察法 実技テスト
		独奏（独唱）	楽曲の発展的な理解と演奏表現の工夫	15		
		ピアノ発表会	自由曲を選択し、計画的に練習を組み立てる。聴衆がいる事で、演奏する側の表現方法や緊張感を体験する。	15		観察法 実技テスト
		ヴォイスアンサンブル	グループを作って一人ひとりの役割を決め、言葉の響きやリズムの特徴を生かしながら、全体の響きに気をつけてヴォイス・アンサンブルを行う。	18		観察法 実技テスト
			合 計	70		
学習上の注意点		授業マナーを大切にすること。積極的に取り組むこと。				
学習サポート		授業内容に関する質問はいつでも受け付けます。				

学年・コース	教科	科目		単位数	担当者			
2学年	外国語科	英語 コミュニケーションⅡ		2	沼田 裕樹			
使用教科書	All Aboard! I (前期) All Aboard! II (後期)		使用副教材	夢をかなえる英単語0 夢をかなえるリスニング0 オールアボードブリッジワーク Vision Quest New English Grammar 24				
科目の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
育成を目指す資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	◎	◎			○		○	
育成のための具体的方策	基礎学力:教材等を用い、英語を活用した学習を行う。 コミュニケーション能力:グループワークを通じた活動や発表を行う。また、日々の授業において英語をはなす機会を設ける。							
評価規準 (到達目標)	観点							
	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	英語の特徴やきまりに関する事項を理解し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて日常的な話題や社会的な話題について聞く、読むなどしてその内容を捉えたり、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して伝え合う、発表する、書くなどの技能を身に付けている。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について必要な情報を聞き取り、話し手・書き手の意図や概要、要点を捉えたり、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して発表したり、書いたりして伝えている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手・書き手・聞き手・読み手に配慮しながら、主体的、自立的に英語を活用しようとしている。			
評価の方法	ペーパーテスト パフォーマンステスト(LRWS)		ペーパーテスト パフォーマンステスト(LRWS) 発表、話し合い等の多様な活動		言語活動やパフォーマンステスト等への取組状況 配布プリント等をの学習への取組状況			
単元の目標・評価規準								
単元名	Lesson6 A Funny Picture from the Edo Period 奇想天外な浮世絵師							
単元の目標	○江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。 ○受け身:〈be 動詞＋過去分詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ○好きな絵について、英語で述べることができるようにする。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
評価規準 (A評価のレベル)	○受け身(be 動詞＋過去分詞)を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ○好きな絵の紹介とその理由について、受け身〈 be 動詞＋過去分詞)を用いて、情報や考え、気持ちを話して伝え合う技能を身に付けている。		○歌川国芳の浮世絵に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな絵とその理由について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合っている。		○歌川国芳の浮世絵に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな絵とその理由について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合おうとしている。			
単元名	Lesson7 A Diary of Hope アンネ・フランク							
単元の目標	○アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業を通して、生きることの意味について考える。 ○比較表現:〈 -er 〉〈 the -est 〉〈 as＋原級 as 〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ○関心のある人物について、英語で説明することができるようにする。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
評価規準 (A評価のレベル)	○比較表現〈 -er 〉〈 the -est 〉〈 as 原級＋ as 〉を用いた文の形・意味・用法を理解している。また、アンネ・フランクについて学んだり、関心のある人物について調べた事柄を整理・理解している。 ○比較表現〈 -er 〉〈 the est 〉〈 as 原級＋ as 〉の理解をもとに、アンネ・フランクについて学んだり、関心のある人物について自分で調べた事柄を用いて、考えなどを伝え合う技能を身に付けている。		○アンネ・フランクの生活と彼女の 日記について書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、関心のある人物について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合っている。		○アンネ・フランクの生活と彼女の日記について書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、関心のある人物について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合おうとしている。			
単元名	Lesson8 A Door to a New Life ロボットカフェ							
単元の目標	○ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性について考える。 ○現在完了形:〈have[has] has＋過去分詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ○人の生活を豊かにするロボットについて考え、英語で提案することができるようにする。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
評価規準 (A評価のレベル)	○現在完了形〈 have[has] has＋過去分詞)の理解をもとに、ロボットカフェについて学んだり、ロボットについて自分で調べた事柄を用いて、人の生活を豊かにするロボットのアイディアを提案する技能を身に付けている。		○ロボットカフェに関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、ロボットについて自分で調べた事柄を用いて、人の生活を豊かにするロボットのアイディアを考えて、それを提案する記事を書いたり話したりしている。		○ロボットカフェに関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、ロボットについて自分で調べた事柄を用いて、人の生活を豊かにするロボットのアイディアを考えて、それを提案する記事を書いたり話したりしようとしている。			
単元名	Lesson9 Fighting Plastic Pollution							
単元の目標	○プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動を学習する。 ○名詞を後ろから説明する分詞を用いた文の形・意味・用法を理解する。 ○環境を守るためにできることについて、英語で述べることができるようにする。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
評価規準 (A評価のレベル)	○「名詞を後ろから説明する分詞」が用いられた文の形・意味・用法を理解している。また、プラスチックごみによる環境汚染の問題について		○プラスチックごみによる環境汚染の問題に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、プラスチックご		○プラスチックごみによる環境汚染の問題に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、プラスチックごみの問題につい			

	て学んだり、プラスチックごみの問題について調べた事柄を整理・理解している。 ○「名詞を後ろから説明する分詞」の理解をもとに、プラスチックごみによる環境汚染の問題について学んだり、プラスチックごみの問題について自分で調べた事柄を用いて、自分たちにできることを伝え合う技能を身につけている。	みの問題について自分たちにできることについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いて伝え合っている。	て自分たちにできることについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いて伝え合おうとしている。
単元名	Lesson10 Pigs from across the Sea		
単元の目標	○第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、両地域の現在の交流について学習する。 ○関係代名詞: who, which[言語活動] ○海外の文化や社会に対する理解を深める活動について、英語で述べるができるようにする。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	○関係代名詞who, whichを用いた文の形・意味・用法を理解している。また、第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイからの援助や、両地域の現在の交流について学んだり、海外の文化や社会を理解する手段について、自分で調べた事柄を整理・理解している。 ○関係代名詞who, whichの理解をもとに、第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイからの援助や、両地域の現在の交流について学んだり、海外の文化や社会を理解する手段について自分で調べた事柄を用いて、考えや情報などを話して伝え合う技能を身につけている。	第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイからの援助などに関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、海外の文化や社会を理解するためにできることについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いて伝え合っている。	第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイからの援助などに関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、海外の文化や社会を理解するためにできることについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いて伝え合おうとしている。

授業計画					
学期 月	学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	4 Lesson6	白糠町(釧路)を紹介(PW)	7		定期考査 パフォーマンステスト 発表 話し合い活動 授業への取組状況 等
	5 Lesson7	動名詞	7		
	6 Lesson7	過去分詞	7		
	7 Lesson8	受け身	7		
	8 Lesson8	公共交通機関の表現	5		
後期	9 Lesson9	現在完了形	7		
	10 Lesson9	見学旅行の発表	6		
	11 Lesson10	見学旅行の発表	7		
	12 Lesson10	見学旅行の発表	5		
	1 Lesson10	比較表現	4		
	2 Lesson10	関係代名詞	4		
	3 Lesson10	病気の表現	4		
合 計			70		
学習サポート					

学年・コース		教科		科目		単位数	担当者		
2 学年		家庭科		家庭総合		2	石野 彩花		
使用教科書		家庭総合（東京書籍）			使用副教材				
科目の目標		生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力	
				○			○		
育成のための 具体的方策		・ワークシートの活用と、単元テスト・定期考査による基礎学力の確認 ・実習、グループワーク、課題制作の実施							
評価規準 （到達目標）	観点								
	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて科学的な理解をしているとともに、それらに係る技能を身につけている。			生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現し、生涯を見通して課題を解決する力を身につけている。			様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとするために実践しようとしている。		
評価の方法		単元テスト・実技課題			単元テスト・ワークシート		単元テスト・ワークシート		
単元の目標・評価規準									
単元名		第4章 超高齢社会を共に生きる							
単元の目標		高齢者の心身の特徴、社会環境、高齢者に関わる際に重要な尊厳や自立の視点、関わり方などについて理解し、心身の状況に応じた技能を身につけるとともに、高齢者の生活を支えるための家族、地域社会の役割の重要性について考察できるようにする。							
観点		知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A評価のレベル）		高齢者の心身の特徴、尊厳、自立生活の支援や介護について理解を深め、適切に関わるための生活支援に関する技術を身につけている。			高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察し、心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方を工夫することができる。			高齢者の自立生活について主体的に考え、食文化を継承し、自分や家庭の生活の充実向上を図ろうとするために実践しようとしている。	
単元名		第5章 共に生き、共に支える。							
単元の目標		乳幼児期から高齢期までの人の一生を見通して、家族・家庭の生活課題を主体的に解決していくために必要な福祉や社会的支援について理解し、年齢や障がいの有無に関わらず、共に支え合う社会の実現のための課題・方法を考察できるようにする。							
観点		知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A評価のレベル）		家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解し、様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解を深めている。			家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察し、様々な人々との関わり方を工夫することができる。			家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について主体的に考え、食文化を継承し、自分や家庭の生活の充実向上を図ろうとするために実践しようとしている。	
単元名		第6章 食生活をつくる							
単元の目標		食生活の科学と文化について理解し、生涯を見通した食生活の管理ができるようにする。また食生活に関わる情報を適切に判断し、生涯を通して健康や環境に配慮した安全な食生活を主体的に営むことができるようにする。							
観点		知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A評価のレベル）		栄養の特徴、健康や環境に配慮した食生活及び食文化について理解を深め、自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技術を身につけている。			健康及び環境に配慮した自己と家族の食事について考え、計画することができる。また日本の食文化の継承・創造について考察し課題を解決する力を身につけている。			健康で安全な食生活について主体的に考え、食文化を継承し、自分や家庭の生活の充実向上を図ろうとするために実践しようとしている。	
単元名		第9章 経済生活を営む							
単元の目標		生活と経済のつながりについて、家計の構造や経済全体の仕組みとの関わりを理解し、主体的な資金管理の在り方やリスク管理の考え方を導入した経済計画の重要性について考察することができるようにする。							
観点		知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A評価のレベル）		家計の構造や生活における経済と社会との関わり、リスク管理について理解を深め、生涯を見通した経済管理・計画のための情報の収集・整理を適切にすることができる。			生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージごとの課題や社会保障制度などと関連づけて考察し課題を解決する力を身につけている。			意思決定の重要性について主体的に考え、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとするために実践しようとしている。	
単元名		第10章 持続可能な生活を営む							
単元の目標		地球環境問題やグローバル社会における諸問題の解決に向けて、持続可能な消費について理解し、生活文化と関わらせて考察し、持続可能な社会の構築に向けて、自らの消費生活から参画できるようにする。							
観点		知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A評価のレベル）		生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会への参画することの意義について理解を深めることができる。			安全で安心な生活と消費及び生活文化について考察し、ライフスタイルを工夫する力を身につけている。			持続可能な生活と社会について主体的に考え、自分や家庭の生活を工夫し、実践しようとしている。	
単元名		第11章 これからの生活を創造する							
単元の目標		これまでの学習を活用し、自分の目指すライフスタイルを実現するために、生涯を見通した生活を設計することができるようにする。							
観点		知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
評価規準 （A評価のレベル）		これまでの学習を整理し、自分らしい生活が実現できるように生活設計をすることができる。			将来の家庭生活及び職業生活について考察し工夫する力を身につけている。			これからの家庭生活及び社会生活について、主体的に考え、工夫し、実践しようとしている。	

単元名	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ		
単元の目標	高等学校家庭科の特色であるホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解し、実際に自己の家庭生活や地域の生活の中で実践できるようにする		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (A評価のレベル)	ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。	自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践する力が身についている。	自身や家庭、学校の課題を解決しようとし、実践しようとしている。

授業計画						
学期 月	学習項目		学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	4	第4章 超高齢社会を共に生きる 1 超高齢・大衆長寿社会の到来 2 高齢期の心身の特徴 3 高齢者の自立を支える 4 これからの超高齢社会 【単元テスト】	○超高齢社会の現状や高齢期の心身の特徴を理解する。 ○高齢期の生活課題や介護保険について理解したうえで、高齢者の自立のための適切な支援方法について考える。 ○これからの超高齢社会の課題を理解し、自身の高齢期の生き方について考えとともに、地域社会の一員として高齢者との関わり方を考え、解決方法を考える。	10		単元テスト ワークシート
	5	第5章 共に生き、共に支える 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる 【単元テスト】	○共生社会と社会保障について理解し、その必要性を考える。 ○共生社会をめざして、地域とのつながりや自身の役割について考えると共に、現在の課題を見出し、解決策を考える。	5		単元テスト ワークシート
	6	第9章 経済生活を営む 1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 生涯の経済生活を見通す 5 家計をマネジメントする 6 これからの経済生活 【単元テスト】	○意思決定の重要性を理解し、よりよい意思決定のために、情報を活用する力を身につける。 ○購入と契約について理解し、多様化する支払い方法を状況に応じて選択する力を身につける。 ○消費者の権利と責任について理解し、消費者問題を予防し適切に対応できる力を身につける。 ○家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解し、生涯を見通して家計をマネジメントする力を身につける。	13		単元テスト ワークシート
後期	7					
	8	第6床 食生活をつくる 1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 3 食品の選択と安全 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎 6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活 【単元テスト】	○食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化を理解する。 ○栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性を科学的に理解する。 ○食品の選び方、保存方法、食中毒やアレルギーに関する知識を身につける ○自分と家族の食事計画を立てる。 ○食生活の自立に必要な知識と技能を身につける。 ○日本や世界の食文化について理解し、継承・創造について考える。 ○安全・環境・健康に配慮した食生活について考える。	35		単元テスト ワークシート 実技課題
	9					
	10					
	11					
	12					
	1	第10床 持続可能な生活を営む 1 持続可能な社会を目指して 2 一人一人の力で社会を動かす 【単元テスト】	○身近な生活と環境との関わりについて理解する。 ○持続可能な消費や生活について理解し、工夫したライフスタイルを考える。	5		単元テスト ワークシート
	2					
	3	第11床 これからの生活を創造する 1 生活をデザインする ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	○これまでの学習を整理し、人生の目標を達成するための生活設計を行う	2		ワークシート
合 計				70		

学習サポート	・教科書は1年生の家庭総合で使用した物を使います。 ・調理実習を行います。エプロンは1年生の家庭総合で作成した物を使います。 ・実習やグループワーク等も行いますので、欠席には注意し、積極的に参加しましょう。
--------	---

学年・コース	教科	科目		単位数	担当者			
2 学年	家庭科	保育基礎		2	石野 彩花			
使用教科書	保育基礎（教育図書）			使用副教材				
科目の目標	保育の意義や方法、子どもの発達と生活の特徴、子どもの福祉や文化について理解し、関連する技術を身に付けるとともに、子ども一人一人の発達に適した保育環境を整えることの重要性について思考を深め、地域の保育や子育て支援に寄与できる資質・能力を育成する。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
						○	○	
育成のための 具体的方策	・ワークシートの活用と、単元テスト、考査による基礎学力の確認 ・実習、グループワーク、課題作成の実施							
評価規準 （到達目標）	観点							
	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて理科史するとともに、関連する技術を身に付けている。			子どもを取り巻く課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。		子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
評価の方法	考査・単元テスト 実習・課題			考査・単元テスト ワークシート		ワークシート 実習・課題		
単元の目標・評価規準								
単元名	第1章 子どもの保育							
単元の目標	保育の必要性和意義、保育の目的に応じた基本的な保育の方法や保育環境について理解し、子どもの心身の状態や発達に応じた保育の方法とその環境について考察し、工夫することができるようにする。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	保育の意義と方法、保育の環境の特徴と役割について理解している。			子どもの心身の状態や発達に応じた保育の方法とその環境について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。		子どもの保育の方法や保育の環境について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
単元名	第2章 子どもの発達							
単元の目標	子どもの発達の特性や家庭を理解するとともに、心身の発達に応じた基礎的な保育の技術を身に付け、乳幼児期の子どもの健全な心身の発達について考察し、工夫することができるようにする。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	生涯発達における乳幼児期について、基本的な発達の特性と心身の様々な機能の発達を発達時期ごとの子どもの姿を通して理解している。			乳幼児期の子どもの健全な心身の発達について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。		子どもの発達について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
単元名	第3章 子どもの生活							
単元の目標	子どもの生活と養護について理解し、子どもの健康的な生活を支える保育技術を身に付け、工夫することができるようにする。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	子どもの生活と正午について理解し、適切な生活習慣の形成や安全管理に関する保育の技術を身に付けている。			子どもの生活と適切な養護について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。		子どもの生活と養護について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
単元名	第4章 子どもの福祉							
単元の目標	保育を行う上で重要な、子どもの福祉の理念や制度、子どもの福祉を支える様々な施設の役割について理解し、これからの社会に求められる保育について考察することができるようにする。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	児童観の変遷や児童福祉の理念と制度、児童に関わる施設について理解している。			子どもの福祉を支える場の役割について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。		子どもの福祉について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
単元名	第5章 子どもの文化							
単元の目標	子どもの文化、遊びと表現活動について理解し、子どもの健やかな発達を促すために必要な保育の技術を身に付け、工夫することができるようにする。							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	子どもの文化、遊びの表現活動について理解し、関連する技術を身に付けている。			子どもの健やかな発達を促す遊びや表現活動について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。		子どもの文化について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		

授業計画					
学期 月	学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前期	4 5	第1章 子どもの保育 1 保育の意義 2 保育の環境 3 保育の方法	8		単元テスト ワークシート
	6 7	第2章 子どもの発達 1 子どもの発達と特性 2 乳幼児の発達と発達	1 2		単元テスト ワークシート
	8 9 10	第3章 子どもの生活 1 子どもの健康と生活 2 子どもの食事 3 子どもの衣服と寝具 4 子どもの健康と安全	2 2		単元テスト ワークシート 実習
	11	第4章 子どもの福祉 1 保育にみる児童観 2 児童福祉の理念と法規・制度	6		単元テスト ワークシート
	12 1 2 3	第5章 子どもの文化 1 子どもの文化の意義 2 子どもの文化を支える場 3 子どもの遊び 4 子どもの表現活動	2 2		単元テスト ワークシート 実習
	合 計		70		
後期					
学習サポート		・実習の際に、裁縫セット、エプロン、ジャージ等を使用する可能性がありますので、準備をしておきましょう。			

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
2学年・選択	商業		簿記		4	戸草内 桃華		
使用教科書	新簿記（実教出版）			使用副教材		最新式簿記検定問題集 全商2・3級（実教出版）		
科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を育成することを目指す。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	◎							○
育成のための 具体的方策	基礎学力：ワークシートを使用した授業。単元テストで基礎学力が身に付いたかを確認。 社会形成力：企業経営の仕組みを会計分野の側面から理解し、実務を身につけることで実社会との関係性を見いだす。							
評価規準 （到達目標）	観点							
	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	企業において日常発生する取引について適正に記録するとともに、適正な財務諸表を作成するために必要な技術を身に付けている。			取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と実務に適用することに伴う課題を見いだすとともに、会計情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、解決ことについて考えている。		自ら簿記について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、日々の取引の記録と財務諸表の作成に責任をもって取り組む。		
評価の方法	定期考査・単元テスト			定期考査・単元テスト		問題集・ワークシート		
単元の目標・評価規準								
単元名	簿記の基礎							
単元の目標	簿記の原理に関する知識、技術などを基盤として、取引を記録することと決算の意義について自らの考えを持つとともに、適正な取引の記帳と記録の効果的な活用についての意識と意欲を高め、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。							
観点	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	簿記の原理について理解するとともに、関連する技術を身につけること。			取引を記録することと決算の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだすこと。		簿記の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組むこと。		
単元名	取引の記帳							
単元の目標	記帳に関する知識、技術などを基盤として、企業会計に関する法規と基準を実務に適用し、適正な会計帳簿の作成について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。							
観点	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身につけること。			取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応すること。		取引の記帳について学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組むこと。		
単元名	決算①							
単元の目標	決算整理など決算に関する知識、技術などを基盤として、企業会計に関する法規と基準を実務に適用し、適正な決算整理と財務諸表の作成について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。							
観点	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身につけること。			決算の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応すること。		決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組むこと。		
単元名	会計帳簿と帳簿組織							
単元の目標	伝票の利用など記帳の効率化に関する知識、技術などを基盤として、企業会計に関する法規と基準を実務に適用し、伝票の利用と会計ソフトウェアの効果的な活用について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。							
観点	知識・技術			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A評価のレベル）	記帳の効率化について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身につけること。			記帳の効率化の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応すること。		記帳の効率化について自ら学び、伝票の利用と会計ソフトウェアの効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組むこと。		
単元名								
単元の目標								
観点								
評価規準 （A評価のレベル）								

授業計画								
学期 月		学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法		
前期	4	第1章 簿記の基礎 第2章 資産・負債・純資産と貸借対照表	○簿記の意味、目的、歴史及び必要性や簿記の重要性について理解する。 ○具体的な例を用いて貸借対照表の役割と構造及び資産・負債・純資産の基本的な意味とそれらの相互関係について理解する。	10		単元テスト ワークシート 問題集		
	5	第3章 収益・費用と損益計算書 第4章 取引と勘定	○具体的な例を用いて損益計算書の役割と構造及び収益・費用の基本的な意味とそれらの相互関係について理解する。	20			単元テスト ワークシート 問題集	
	6	第5章 仕訳と転記 第6章 仕訳帳と総勘定元帳	○取引の仕訳から勘定の記入を経て決算に至る簿記の一巡の手続きについて理解する。特に取引の仕訳に関しては、取引の二面性と仕訳の方法について理解し、勘定の記入に関しては、勘定の役割と総勘定元帳の記帳方法を習得する。					
	7	第7章 試算表 第8章 精算表	○清算表を用いて、損益計算書と貸借対照表の相関を理解する。					
	8	第9章 決算 第10章 現金・預金などの取引	○簿記上の現金の入金・出金及び当座預金の預け入れ・引き出し、現金過不足、当座借越、小口現金、その他の預貯金の記帳について理解する。	20				
	9	第11章 商品売買の取引 第12章 掛け取引 第13章 手形の取引 第14章 その他の債権・債務の取引	○商品の仕入・売上及び値引・返品など商品売買取引について理解する。 ○手形の振り出し、受け取り、裏書きなど基本的な手形に関する債権・債務の記帳について理解する。	10				
	後期		○前期期末考査					定期考査 単元テスト ワークシート 問題集
			第15章 固定資産の取引 第16章 個人企業の資本金の取引	○固定資産の意味と種類、取得、売却に関する記帳について理解する。				
		10	第17章 販売費及び一般管理費と税金の取引	○個人企業の資本を増加・減少させる取引について考え、その処理方法を習得する。税などの意味と処理方法を習得する。 ○販売費および一般管理費について理解する。		20	単元テスト ワークシート 問題集	
		11	第18章 決算整理（その1） 第19章 8桁精算表 第20章 帳簿決算	○決算整理の意味や必要性を理解し、売上原価の算定、貸し倒れの見積もり、定額法による減価償却の記帳法とその考え方を理解する。 ○財務諸表については損益計算書、貸借対照表の作成方法を習得する。		30		
12		第21章 会計帳簿	○会計帳簿については、種類と役割、企業の分課制度と帳簿全体の仕組みについて理解する。 ○伝票については、入金伝票、出金伝票、振替伝票の3伝票の転記の方法を習得させる。	20				
1		第22章 伝票の利用		10	定期考査 単元テスト ワークシート 問題集			
2		○学年末考査						
3		第23章 会計ソフトウェアの活用	○会計ソフトウェアの活用方法について理解する。					
			合 計	140				
学習サポート		・授業では教科書、問題集、ファイル、電卓、赤ボールペン、定規を使用します。 ・1月には全国商業高等学校協会主催の簿記検定3級又は2級を全員で受験します。						

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
2 学年	商業		情報処理		2	本郷 雄一郎		
使用教科書	最新情報処理(実教出版)			使用副教材	全商情報処理検定模擬問題集3級(実教出版)			
科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	◎				○		○	○
育成のための 具体的方策	基礎学力：ワークシートを使用した授業。単元テストで基礎学力が身に付いたかを確認。 情報活用力・協働力、課題解決力・社会形成力：ICTを活用し、社会のさまざまな課題を発見したり、情報の信憑性を見極めながら自分の考えを適切に表現する。							
評価規準 (到達目標)	観 点							
	知 識 ・ 技 能		思 考 ・ 判 断 ・ 表 現			主体的に学習に取り組む態度		
	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。			企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
評価の方法	定期考査・単元テスト 実技課題		定期考査・単元テスト 実技課題・発表			問題集・ワークシート グループワーク・発表		
単元の目標・評価規準								
単元名	1 章 企業活動と情報処理							
単元の目標	企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を身に付け、情報処理の意義と課題について、企業活動と関連付けて見いだす。また、企業における情報処理について自ら学び、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組む。							
観 点	知 識 ・ 技 能		思 考 ・ 判 断 ・ 表 現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	企業における適切な情報処理について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。		情報処理の意義と課題を発見し、企業活動と関連付けて見いだしている。			企業における情報処理について自ら学び、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
単元名	2 章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク							
単元の目標	コンピュータシステムと情報通信ネットワークに関する知識、技術などを基盤として、情報技術の進歩、コンピュータシステムと情報通信ネットワークの活用に関する具体的な事例など科学的な根拠に基づいて、適切な情報の収集と管理について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。							
観 点	知 識 ・ 技 能		思 考 ・ 判 断 ・ 表 現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	コンピュータシステムと情報通信ネットワークについて実務での活用に関して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。		コンピュータシステムと情報通信ネットワークに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、情報を収集し管理する方策を考案して実施し、評価・改善している。			コンピュータシステムと情報通信ネットワークについて自ら学び、適切な情報の収集と管理に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
単元名	3 章 情報の集計と分析							
単元の目標	統計、表・グラフの作成など情報の集計と分析に関する知識、技術などを基盤として、ビジネスに関する情報の集計と分析に対する要求などに基づいた適切な情報の提供と効果的な活用について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。							
観 点	知 識 ・ 技 能		思 考 ・ 判 断 ・ 表 現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	ビジネスに関する情報の集計と分析について実務に即して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。		ビジネスに関する情報の提供に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報を集計・分析して表現し、評価・改善している。			ビジネスに関する情報の集計と分析について自ら学び、適切な情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
単元名	4 章 ビジネス文書の作成							
単元の目標	分掌の表現、ビジネス文書の種類などビジネス文書の作成に関する知識、技術などを基盤として、ビジネス文書の作成に対する要求などに基づいた適切な情報の発信について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。							
観 点	知 識 ・ 技 能		思 考 ・ 判 断 ・ 表 現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	ビジネス文書の作成について実務に即して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。		ビジネス文書の作成に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、文書で発信することが必要な情報を表現し、評価・改善している。			ビジネス文書の作成について自ら学び、ビジネス文書による適切な情報の発信に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
単元名	5 章 プレゼンテーション							
単元の目標	プレゼンテーションの技法などプレゼンテーションに関する知識、技術などを基盤として、プレゼンテーションに対する要求などに基づいた適切な情報の伝達について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。							
観 点	知 識 ・ 技 能		思 考 ・ 判 断 ・ 表 現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A評価のレベル)	プレゼンテーションについて実務に即して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。		プレゼンテーションに対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、伝達することが必要な情報を表現し、評価・改善している。			プレゼンテーションについて自ら学び、適切な情報の伝達に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		

授業計画					
学期 月	学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
	1章 企業活動と情報処理 1節 情報処理の重要性	身近な事例を基に情報とは何かを考える学習活動により、情報の意義と役割を理解する。 社会で利用されている情報システムの例や、ビジネスにおける情報活用の実践を学ぶことにより、コンピュータを利用した情報の処理や活用の重要性を理解する。	2		定期考査 単元テスト 問題集
	2節 情報モラルと法規	身近な事例から情報の価値を考える学習活動により、情報を正しく取り扱うことの大切さに気づき、そのために必要な情報モラルの基本的な考え方や態度について理解する。	2		
	3節 コミュニケーションと情報デザイン	企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	3		
	2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク				
	1節 コンピュータシステムの概要	コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ハードウェアとソフトウェアの種類と機能について理解するとともに、それを活用する基本的な技術を身に付ける。	3		定期考査 単元テスト 問題集
	2節 情報通信ネットワークのしくみと構成	情報通信ネットワークを利用したビジネス情報の検索と活用方法、情報化社会に参画するために個人が身につけるべきセキュリティ管理の方法について理解する。	1		
	3節 インターネットの活用		2		
	4節 情報セキュリティの確保		1		
	3章 情報の集計と分析				
	1節 ビジネスと統計	情報の重要性を理解し、情報を分析して、傾向を把握する能力を身に付けると同時に、基本的な操作や計算式及び関数について理解し、目的に応じて適切な表の作成する技術を身に付ける。	3		定期考査 単元テスト 実技課題 発表
	2節 関数を利用した表の作成	グラフの種類や構成要素、特色を理解し、表計算ソフトウェアを利用して目的に合ったグラフ作成方法について理解する。	16		
	3節 グラフの作成	大量のデータを目的に応じた利用しやすい形で活用するために、表計算ソフトのデータベース機能を利用して、整列や検索、抽出の技法について理解する。	7		
	4節 情報の整列・検索・抽出		5		
	5節 問題の発見と解決の方法		3		
	4章 ビジネス文書の作成				
	1節 ビジネス文書と表現	事文書情報がコミュニケーションの重要な手段として、ビジネスの諸活動の中で果たしている役割や種類について理解する。	1		定期考査 単元テスト 実技課題 発表
	2節 基本文書の作成	ワープロの利用に関する知識と技術を習得させ、文書の構成、構成要素の配置、文書作成の要領について理解する。	6		
	1. ワープロの操作と入力方法	基本的な社内文書や社外文書を取り上げて、作成に関する知識と技術について理解する。			
	2. ワープロを利用した文書の作成	ワープロの多様な機能を利用して、表やグラフなどを含む応用的な文書の作成に関する知識と技術について理解する。	6		
	3. 社外文書				
	4. 社内文書				
	3節 応用文書の作成				
	5章 プレゼンテーション				
	1節 プレゼンテーションの技法	ビジネス活動におけるプレゼンテーションの意義を理解するとともに、基礎的な技法を身に付ける。	1		定期考査 単元テスト 実技課題 発表
	2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション	目的や形態によるプレゼンテーション方法の違いについて理解するとともに、プレゼンテーションソフトウェアを活用した実習を通して、資料の作成などの発表準備から発表までの一連の活動について理解を深める。	6		
	総合演習	各種ソフトウェアを適切に活用し、様々な報告書や文書を作成、または発表する。	2		
合 計			70		
学習サポート		7月、11月には、全商ビジネス文書実務検定、9月、1月には情報処理検定の受検が必須です。単元によって学習の仕方が変わりますが、実社会で生きるPC技能の習得に向けた実技演習が中心となります。積極的に参加をしてください。			

学年・コース	教 科		科 目		単位数	担当者		
2 学年			産業社会と人間		1	早乙女 宙士		
使用教科書				使用副教材				
科目の目標	自己の在り方や生き方について考えさせ、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養うとともに、様々な体験的な学習や調査、研究などを通して、将来の目標や課題を見つけ、それを主体的に解決するための能力を育てる。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
		○		○	○		○	
育成のための 具体的方策	コミュカ：インターンシップ 自己管理：インターンシップ 情報活用：インターンシップ 未来設計：インターンシップ、道新合同企業説明会 協働・課題：インターンシップ 社会形成：インターンシップ、道新合同企業説明会							
評価規準 （到達目標）	観 点							
	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	上級学校や職業についての知識、理解を深め、将来の目標達成や課題解決のために必要な知識や技能を身に付ける。			自己分析などをもとに自己の在り方や生き方を考察している。 将来の課題を主体的に解決する方法を考察できる。		生涯にわたって学習に取り組む意欲や社会に積極的にかかわり、社会を形成する態度を養う。		
評価の方法	ワークシート、レポートの内容など			ワークシート・作文・レポート・礼状の内容など		授業への取り組み状況、出席状況、ワークシート等の提出状況など		
単元の目標・評価規準								
単元名	進路適性検査							
単元の目標	進路適性検査を通して、自分の性格の特徴や興味のある分野を理解し、進路の目標を定め、主体的に学習する意欲を高める。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	進路適性検査を通して、自分の性格の特徴や興味分野を知る。			進路適性検査の結果を参考に、自分の将来設計を行う。		主体的に取り組み、学校生活や学習に対する意欲を高めている。		
単元名	インターンシップ事前準備							
単元の目標	インターンシップに向けて、心がまえ、礼法、事業所調べを行い、効果的なインターンシップとなるよう準備する。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	インターンシップ先の事業所について理解を深める。			社会人としてのマナーや仕事の進め方を身に付ける。実習計画を立て、質問事項を考えている。		積極的に協働して取り組んでいる。		
単元名	インターンシップ							
単元の目標	社会人としてのルールやマナー、望ましい職業観・勤労観を身に付ける。社会・職業への移行準備を行う。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	インターンシップ先の事業所について理解を深め、社会人としてのルールとマナーが身に付いた。			インターンシップ先で責任をもって職務を遂行し、課題解決能力を養った。		積極的にインターンシップに参加し、他者と協働している。		
単元名	インターンシップ事後指導、インターンシップ報告会							
単元の目標	礼状、報告書を作成して、体験の振り返りと反省を行う。インターンシップで学んだことを発表して、職業についての理解などを共有し、職業観を深める。1 年生は報告を聞いて、町内外の事業所を知り、次年度のインターンシップへの意識を高める。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	礼状や報告書を作成する技能が身に付いた仕事についての知識・理解が深まった。			体験を振り返り、自分の適性、長所短所を認識した。相手に上手く伝える表現力が身に付いた。		インターンシップの経験をキャリアに結び付けて考え、主体的な進路選択できるようになった。		
単元名	面接練習							
単元の目標	高校生活を振り返り、自己PRの作成をする。 その自己PRを他者にしっかり発表できる。							
観 点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	自らの高校生活を振り返り、自己PR文を作成する			作成した自己PRを他者に向けて発表し、理解してもらうことができる。		自己分析に主体的に取り組み、高校生活の振り返り、わかりやすい説明に取り組んでいる。		

単元名		道新合同企業説明会の参加				
単元の目標		就職先を決定する前に地域の仕事や企業等への理解を深める。				
観点		知識・技能	観点	知識・技能		
評価規準 (A 評価のレベル)		地元企業を知り、仕事の内容についての理解が深まった。	評価規準 (A 評価のレベル)	地元企業を知り、仕事の内容についての理解が深まった。		
授業計画						
学期 月	学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法	
4	オリエンテーション	目的、目標、評価、進路希望調査	1		取り組み状況	
	6	進路適性検査	自己分析を行い、進路選択に活かす	2		取り組み状況
	7	進路適性検査振り返り		2		ワークシート
	9	インターンシップ事前指導	インターンシップ先調査、マナー、礼法、心がまえを身に付ける	2		実習日誌
		インターンシップ	望ましい職業観・勤労観を身に付ける。社会・職業への移行準備を行う。	1 8		実習日誌
		インターンシップ事後指導	礼状、報告書を作成して、体験の振り返りと反省を行う。 報告会のリハーサルを行う	3		報告資料
	10	インターンシップ報告会	インターンシップで学んだことを発表する。	2		発表
	2	面接練習	高校生活を振り返り、自己 PR の作成をする。	2		ワークシート
3	企業説明会の参加	地域の仕事や企業等への理解を深める。	3		ワークシート	
合 計			3 5			
学習サポート		スタディサポートのアプリと活動メモを使用します。				

学年・コース	教科	科目		単位数	担当者			
2 学年	環境鮮麗学（学校設定科目）			1	早乙女 宙士			
使用教科書	-		使用副教材					
科目の目標	環境鮮麗学 で学んだことが即社会に生きた知識として役立つことを理解し、アウトプットする能力を養いました。環境鮮麗学 では、前期は、あらゆる角度から環境について学び、その切り口から、地球環境問題を自らの身近な問題まで消化させ、その課題解決の方法を科学的視点から考える。後期は、白糠町についての学びとして、白糠町観光ガイド検定の問題を作成する。							
育成を目指す 資質・能力	基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理 能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
	○		○	○				
育成のための 具体的方策	「コミュニケーション・スキル」グループの中で、自分が担うべき役割を見極める力。 「情報の理解・選択・処理」身近な環境の現状把握と問題解決に対する発想力と情報発信力。 「将来設計・郷土愛」地域に限らず、地球規模で自身のできることを発見する能力。							
評価規準 （到達目標）	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	演習における取組状況、レポートの内容		ワークシート・作文・レポートの内容			授業への参加状況、出席状況、ワークシート等の提出状況		
評価の方法	地球環境問題の現状把握と自分達にできることの提案。		教科横断型の発想。 実地、レポート。その取組具合と発表。			出席、提出物、グループ内の自身の役割・担当分野の理解。グループに対する貢献度。		
単元の目標・評価規準								
単元名	地球環境問題、何がどう問題かを知る。（他教科とのコラボ）							
単元の目標	地球環境問題にはどのようなものがあるのか、地球環境を考えるための基礎知識としての地球の歴史について、理解する。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	地球環境問題の具体例や地球の歴史について理解ができている。		他教科との横断的な思考や発想力が十分に発揮できている。			グループ内で積極的に自身の役割を果たしている。		
単元名	世界（地球）と公害の関係を知る。（社会科とのコラボ）							
単元の目標	世界、ひいては日本の公害をの歴史的視点も踏まえながら考察し、環境汚染の現在を理解する。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	日本の近代化と公害の関係を振り返り、環境汚染の現在を理解する。		他教科との横断的な思考や発想力が十分に発揮できている。			グループ内で積極的に自身の役割を果たしている。		
単元名	地球温暖化の科学と世界各国の取組み（理科とのコラボ）							
単元の目標	地球温暖化の仕組みを知り、温暖化を防がなくてはならない理由や温暖化の国際的な取組みを理解する。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	温暖化を防がなくてはならない理由について、地球温暖化の仕組みや温暖化の国際的な取組みから理解する。		他教科との横断的な思考や発想力が十分に発揮できている。			グループ内で積極的に自身の役割を果たしている。		
単元名	酸性化する大気と海洋（理科とのコラボ）							
単元の目標	大気と海の酸性化することによる問題点を理解する。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	大気と海の酸性化が及ぼす影響やその仕組みを理解する。		他教科との横断的な思考や発想力が十分に発揮できている。			グループ内で積極的に自身の役割を果たしている。		
単元名	どうなる地球のエネルギー資源（理科とのコラボ）							
単元の目標	石油資源・化石資源の問題や原子力発電をどう捉えるか、太陽光エネルギーの現状について理解する。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	エネルギー資源問題と代替エネルギーについて理解する。		他教科との横断的な思考や発想力が十分に発揮できている。			グループ内で積極的に自身の役割を果たしている。		
単元名	オゾン層破壊がもたらすこと（理科とのコラボ）							
単元の目標	オゾン層破壊の基礎知識とその影響について理解する。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）	オゾン層破壊がもたらす影響について理解する。		他教科との横断的な思考や発想力が十分に発揮できている。			グループ内で積極的に自身の役割を果たしている。		
単元名	生態系の危機（理科とのコラボ）							
単元の目標	生態系とは何か、生態系破壊がもたらす影響、生物多様性を守る意義について理解する。							
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準	生態系や生物多様性について理解する。		他教科との横断的な思考や発想力が十分に			グループ内で積極的に自身の役割を果たしている。		

(A 評価のレベル)		発揮している。			
単元名	ゴミ問題　あふれるゴミ（理科・数学・社会科とのコラボ）				
単元の目標	国内、国際的なゴミ問題の現状とゴミ問題の今後について理解する。				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	海のゴミ調査などをもとに、国内・国際ゴミ問題と今後について理解する。	他教科との横断的な思考や発想力が十分に発揮できている。	グループ内で積極的に自身の役割を果たしている。		
単元名	「水」の危機（理科とのコラボ）				
単元の目標	水資源の現状や日本の水環境をめぐる課題をふまえ、２１世紀は「水の世紀」といわれるのはなぜか、理解する。				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	水資源の現状や日本の水環境をめぐる課題を理解する。	他教科との横断的な思考や発想力が十分に発揮できている。	グループ内で積極的に自身の役割を果たしている。		
単元名	企業と環境経営（商業科とのコラボ）				
単元の目標	環境経営とはなにか、企業の行動様式をふまえ、環境は儲かるのか考える。				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	環境経営、生産活動と企業行動の関係、環境経営の実践とは何かを理解する。	他教科との横断的な思考や発想力が十分に発揮できている。	グループ内で積極的に自身の役割を果たしている。		
単元名	白糠町観光ガイド検定の問題作成				
単元の目標	検定問題を作成するために必要な知識を集め、まとめる能力を身につける。				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 (A 評価のレベル)	白糠町の特徴や歴史について理解ができている。	他教科との横断的な思考や発想力が十分に生かし、具体的な環境活動を検討し、実践計画を立案する。	グループ内で積極的に自身の役割を果たしている。		
授業計画					
学期 月	学習項目	学習内容	予定 時間	実施 時間	評価方法
前	4	他教科とのコラボ	他教科的視点にたって学習する	12	レポート・発表
	5				
	6				
	7	JR白糠線の歴史	白糠線の歴史について学習する 全国各地の廃線について学習する	2	
後	8				
	9				
	10	白糠町観光ガイド検定問題の作成	検定問題の作成に必要な知識を身につける	12	
	11				
	12				
	1				
	2				
3	白糠学園との交流、反省・まとめ	交流事業の実施、まとめ	9		
			合　計	35	
学習サポート		(1) 調査の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、環境を学ぶ意義や価値を理解するようにする。 (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 環境学に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。			

学年・コース		教科		科目		単位数		担当者	
2 学年		総合的な探究の時間				1		石野 彩花	
使用教科書		-			使用副教材		-		
科目の目標		探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す。							
育成を目指す 資質・能力		基礎学力	コミュニケーション力	規律性	自己管理能力	情報活用力	未来設計力	協働力 課題解決力	社会形成力
			○		○		○		○
育成のための 具体的方策		「情報活用力」調べ学習・見学を通して、白糠町の現状と問題の把握をする。 「協働力・課題解決力」授業を通して学んだことを解決するための方策を、自分事として捉え、他者と協力しながら答えを導き出す。							
評価規準 （到達目標）		観点							
		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
		授業への参加状況、出席状況、ワークシート等の提出状況		ワークシート・作文・レポート、発表等の内容			ワークシート・作文・レポート、発表等		
評価の方法		提出物、発表および観察		提出物、発表および観察			提出物、発表および観察		
単元の目標・評価規準									
単元名		しらぬか鮮麗学（探究活動）							
単元の目標		白糠町の課題を発見し、課題解決の方策を考える。							
観点		知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
評価規準 （A 評価のレベル）		現状について正しく理解し、適切な方法を用いて調査を行っている。		課題解決に向けて、適切な方策を考え、研究報告書を作成している。			計画や見学、話し合い等に積極的に参加しようとしており、グループ内での自身の役割を果たそうとしている。		
単元名		しらぬか鮮麗学（関西学）							
単元の目標		白糠と関西の歴史や文化の共通点と相違点を知り、白糠の探究活動に役立てる。							
観点		知識・技能		知識・技能			知識・技能		
評価規準 （A 評価のレベル）		白糠と関西の歴史や文化などの共通点と相違点を調べ、理解を深めている。		白糠と関西の歴史や文化などの共通点と相違点を調べ、理解を深めている。			白糠と関西の歴史や文化などの共通点と相違点を調べ、理解を深めている。		
授業計画									
学期 月	学習項目			学習内容			予定 時間	実施 時間	評価方法
前	4	しらぬか鮮麗学		探究活動			12		レポート
前	7	しらぬか鮮麗学		中間発表（クラス内）			2		発表
後	10	しらぬか鮮麗学		関西学			3		レポート
後	11	しらぬか鮮麗学		探究活動			11		作品・取組など
後	12	しらぬか鮮麗学		総探発表会（全学年）			3		発表
後	1	しらぬか鮮麗学		3 学年 0 学期			4		
				合 計			35		
学習サポート		(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。 (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。							

